

社会科学科 カリキュラム・チェック・リスト

・人文学部では、学部・学科のディプロマポリシーを実現するため、カリキュラム・チェック・リストを作成し、公開することにしました。カリキュラム・チェック・リストとは、授業ごとの到達目標(学生が何をできるようになるかを箇条書きで示したもの)がディプロマポリシーのどの項目と関連するかを一覧表の形で示したものです。このカリキュラム・チェック・リストによって、ディプロマポリシーの各項目が、具体的にどの科目によって実現されるのかがわかります。

・カリキュラム・チェック・リストは、教養科目、学科各コースの開講科目(法学・行政学コースの専門科目、経済学・経営学コースの専門科目、地域研究・社会学コースの専門科目)、学部共通科目の順番で示されています。

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・理解	II 思考・判断	III 態度・行動	IV 汎用的技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
社会科学科 ディプロマ・ポリシー	I【知識・理解】			・社会、人間、自然に関する幅広い教養を身につけている。 ・社会諸科学の学問内容・方法の理解に基づいて、自らの社会的存在の意味を理解している。					
	II【思考・判断】			・社会諸科学の専門性を踏まえて、社会や人間の問題を総合的に捉え、創造的かつ論理的に考えることができる。					
	III【態度・行動】			・自らを高め続ける力を身につけている。 ・多様な価値観を認め合いながら、社会の直面する諸課題に対して、自律的かつ主体的にかかわることができる。 ・市民としての社会的責任と役割について自覚し、他者と協力して目標に向かって努力することができる。					
	IV【汎用的技能】			・他者とコミュニケーションをとりながら、自らの思考・判断について文章・口頭で的確に説明することができる。 ・問題を発見し課題を解決するための多様な情報を収集・分析・活用する能力を身につけている。					
教養科目	フレッシュマンゼミナール(主題別ゼミナール)	2	1	社会現象に関する情報を集める方法を学んだ上で、テーマを設定し、調べ、整理し、考え、議論していく。この過程のなかで、社会科学の基本的な考え方や方法について初歩的な訓練を受ける。さらに、収集し分析した資料などをもとに総合的に取りまとめ、レポートを作成し、それを発表する。授業は通年で原則として隔週に開講する。	(1)社会現象に関する情報を収集・整理できる。 (2)収集・整理した情報を初歩的ながらも論理的に考察できるようになる。 (3)考察の結果を文章や口頭で説得的に発表できるようになる。				◎
	フレッシュマンゼミナール(情報関連科目)	2	1	大学での生活・勉学・研究を進める上で必要なコンピュータスキルを、講義と演習により習得することを目的とする。特に、レポート作成、卒業論文執筆、就職活動等の場面で、安全かつ適切なコンピュータ活用ができるように、実践的コンピュータスキルに焦点をあてる。	(1)勉学・研究活動にコンピュータを積極的・安全に活用できる。 (2)コンピュータ・ネットワークを活用し必要な情報を収集できる。 (3)コンピュータを活用し基礎的な情報表現・編集ができる。				◎
	分野別教養科目(人文の分野)	2	1	人文科学の分野の題材を元に人文科学の理念を知ると共に人間に対する理解を深める。	(1)人文科学の特定分野の基礎的理念・視点を身につける。 (2)人間に対する関心・問題意識を深めることができる。	◎	◎		○
	分野別教養科目(自然の分野)	2	1	自然科学の分野の題材を元に自然科学の理念を知ると共に自然に対する理解を深める。	(1)身近に見られる自然現象を自然科学的なもの見方で捉え考察することができる。 (2)自然に対する興味を深めることができる。	◎	◎		○
	総合科目	2	1~2	複数の分野にわたるテーマや特定地域のテーマ・時事的テーマを扱い、総合的・全体的に物事を捉える姿勢を養成し、生涯学習の能力を高める。	(1)物事を総合的・全体的に捉えることができるようになる。 (2)物事を主体的に判断することができるようになる。 (3)物事を主体的に判断することができるようになる。	◎	◎		○
	外国語科目	2	1	外国語の総合的運用能力を身につける。	(1)国際化・情報化社会に対応できる基礎的な言語運用能力を身につける。 (2)多様な文化と価値観を理解し、幅広い視野を見につける。			○	◎
	健康・スポーツ科目	各1	1~2	身体による体験学習を通して心身の調和を図り健康・体力増進をはかる。	(1)生涯にわたり、健康的でより豊かな生活を設計するために必要な技術や知識を習得する。 (2)スポーツを通じて人間や自然とのコミュニケーションを深め、その意義を理解できるようになる。	○			○
	分野別基礎科目(社会科学入門A)	2	1	高等学校における「政治経済」の「政治」で扱われている事象を素材として、民主政治や人権保障に関する諸問題について講義する。	(1)法学・政治学を学習するために必要な基礎的な知識を習得する。 (2)法学・政治学を学習するために必要な基礎的な考え方を習得する	◎			◎

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
教養科目	分野別基礎科目(社会科学入門B)	2	1	近代社会の構造を経済的側面から概観する。	(1)会社を多面的に理解する。 (2)様々な市場のあり方を理解する。 (3)国際的な経済情勢について理解する。	◎	○	○	
	分野別基礎科目(社会科学入門C)	2	1	1980年代以降、社会学・政治学等の分野において盛んに議論されている「新しい市民社会」という社会秩序理念について議論する。	(1)「新しい市民社会」という社会秩序理念を説明でき、市民社会に関する歴史的な系譜を説明できる。 (2)「新しい市民社会」理念を理解した上で持続的な社会について考えることができる。	◎	◎	○	
	分野別基礎科目(法学・行政学入門)	2	1	法学・行政学の基本的な問題を学びながら、社会科学の概要を学習する。	(1)法学・行政学の諸分野の概要を説明できる。	◎	○		
	分野別基礎科目(経済学・経営学入門)	2	1	経済や経営の行動や仕組みの学習を中心としながら、経済システム全般を大づかみに理解する。	(1)経済・経営の基礎を理解する。 (2)経済・経営の新聞記事やニュースに関心を持ち、大まかに理解できる。 (3)諸問題に自分なりに考える力を身につける。	◎	○		○
	分野別基礎科目(地域研究・社会学入門)	2	1	アジア研究と日本地域研究での「地域」を捉えるための基礎的な知識や見方を紹介し、さらに社会学的なものの方の見方の基本を学ぶ。	(1)「地域研究」の基本的な概念や輪郭が理解できるようになる。 (2)家族や地域社会の変化の概要を理解し、社会学的なものの方の見方を理解できるようになる。	◎	◎	○	
	法学・行政学コース専門科目	法学概論A	2	2	法学の初歩知識をさらに高め、今後の専門科目の理解を促進するため、法学の基礎的な分野における現代的な問題とその考え方について講義する。	(1)法の基礎知識を習得する。 (2)国際法を含む法律学の基礎的な法分野の特色を理解する。	◎	○	
法学・行政学コース専門科目	法学概論B	2	2	法学の初歩知識をさらに高め、今後の専門科目の理解を促進するため、法学の多様な分野における現代的な問題とその考え方について講義する。	(1)法律学の多様な法分野の特色を理解する。 (2)法律学の全体像を説明できる。	◎	○		
法学・行政学コース専門科目	日本国憲法概論	2	2	国家権力の「鎖」との性格を持つ憲法の歴史、日本国憲法の重要項目の意義と内容を確認しつつ、日本社会における問題状況について考察する。	(1)近代立憲主義を理解する。 (2)象徴天皇制の規範構造と現状の問題点を説明できる。 (3)平和主義の意義、内容、現状の問題点を説明できる。 (4)人権保障の具体的項目について、その意義、内容、現状の問題点を説明できる。	◎	◎	○	
法学・行政学コース専門科目	民法概論	2	2	民法の全体像に関する入門的な知識及び民法総則の講義を通じて、民法の基礎を理解する。	(1)民法及び民法総則の基礎知識を取得する。 (2)民法総則に関する己の問題意識に応じて、調査、考察できるようになる。	◎	◎		
法学・行政学コース専門科目	政治学概論	2	2	地方公務員上級試験レベルの政治学の内容のうち、政治学原論と政治思想史に相当する部分を概説する。	(1)政治学の基礎概念を理解し、それをを用いて様々な政治現象を自分で説明できる。 (2)西洋政治思想の大まかな流れを捉えた上で、立憲主義や民主政治の思想的な背景を理解する。	◎	◎	○	
法学・行政学コース専門科目	憲法A	2	2	憲法総論および統治機構についての基本的な解釈論を学ぶ。	(1)憲法総論および統治機構に関する基本的論点と解釈論を理解する。	◎	◎	○	
法学・行政学コース専門科目	行政法A	2	2	行政法の理論を学び、多種多様な行政活動について法的視点から考察する。実際の事件において理論がどのように解釈され、紛争を解決するために用いられたか、また、いかなる課題を残したのかについて学ぶ。	(1)行政法の基礎理論を理解する。 (2)行政との関係において、市民としての権利を確保するための知識を習得する。	◎	◎	○	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
法学・ 行政学 コース 専門科目	財産法A	2	2	所有権や担保物権など、民法の物権法を学習する。	(1)物権法の概要を理解する。	◎	◎		
					(2)物権という法制度の概要を説明できる。	◎	◎		
	刑法A	2	2	刑法総論を中心に刑事法全般の初歩的な学習をする。	(1)近代刑事法の基本原理を理解する。	◎			
					(2)近代刑事法の基本原理の現代的意義を説明できる。		◎	○	
	比較法学A	2	2	比較法学の概念および比較方法の理解を通じて、法的な国際理解につなげ、世界の法体系の大まかな概要について、認識を深める。	(1)比較法学の学問的な意義や研究領域を理解できる。	◎	○		
					(2)法の比較方法を身につけて、実定法の比較法的な理解が行える。	◎		○	○
					(3)法圏の分類に基づいて、世界の法の特徴を明らかにできる。	◎	◎		
	政治制度論	2	2	地方公務員上級試験レベルの政治学の内容のうち、政治制度論、および部分的に政治過程論に相当する部分を概説する。	(1)民主政治の原理とその制度的な多様性を理解する。		◎	○	
					(2)主要国の政治制度を理解し、日本の政治制度と政治過程の特徴を比較の視点から説明できる。		○	◎	
	行政学A	2	2	日本における地方自治の発展、地方政治・行政のしくみ、地方行財政改革や地域レベルでの計画行政、福祉政策などについての基礎を把握する。	(1)上記の主題にある基礎的事項を理解し、説明できる。	◎	◎	○	
					(2)日本の地方行政(地方自治体)が置かれた状況や課題について考察できる。	○	◎	◎	
	行政法A	2	2	行政法の理論を学び、多種多様な行政活動について法的視点から考察する。実際の事件において理論がどのように解釈され、紛争を解決するために用いられたか、また、いかなる課題を残したのかについて学ぶ。	(1)行政法の基礎理論を理解する。	◎	○		
					(2)行政との関係において、市民としての権利を確保するための知識を習得する。	◎	◎	○	
					(3)習得した知識をもとに、紛争解決の方法を考察できるようにする。		◎	◎	○
	コース・ゼミナールA	1	2	オムニバスにより、法学・行政学の基本的な技法の修得を目指して、特に判例学習と実態調査のやり方を訓練する。	(1)法学と行政学の多様な分野の知識と考え方を修得する。	◎	◎		
				(2)法学・行政学の専門的な技法を修得する。		○	◎	◎	
コース・ゼミナールB	1	2	法学または行政学のいずれかのクラスに所属して、その専門分野の題材を基に、情報収集・分析・整理・報告・議論の技法を訓練する。	(1)法学または行政学の専門的な知識と考え方を修得する。	◎	◎			
				(2)法学または行政学の専門的な技法を応用することができる。		○	◎	◎	
憲法B	2	3	人権総論の各論点の解釈論を学ぶ。	(1)人権総論の論点についての解釈論を修得する。	◎	◎	○		
憲法C	2	3	人権各論の各論点に解釈論を学ぶ。	(1)人権各論の論点についての解釈論を修得する。	◎	◎	○		
比較法学B	2	3	英米法および大陸法の成立の歴史的考察を通じて、それぞれの法体系の特色や法の担い手について理解する。	(1)英米法の生成の歴史やその特色について理解できる。	◎	○			
				(2)大陸法の生成やその特色について理解できる。	◎	○			
				(3)大陸法や英米法がわが国の法制度に与えた影響について理解できる。		◎	○	○	
行政法B	2	3	行政救済の領域から、行政不服審査、ならびに、行政事件訴訟法について学ぶ。	(1)行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法、損失補償の制度、基礎理論、関連判例について理解する。	◎	◎	○		
財産法B	2	3	債権法の総論部分と契約法について学ぶ。	(1)債権法の総則と契約法の概要を説明することができる。	◎	◎			
財産法C	2	3	事務管理、不当利得、不法行為について学ぶ。	(1)事務管理、不当利得、不法行為の概要を説明することができる。	◎	◎			

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
法学・ 行政学 コース 専門科目	家族法A	2	3	民法親族編の講義を通じて、夫婦や親子がどのように法律上成立し、そして、それらの間には、どのような権利義務が存在するのかについて理解する。	(1)家族法の基礎知識を取得する。 (2)家族法に関する己の問題意識に応じて、調査、検討できるようになる。	◎	◎		
	家族法B	2	3	民法相続編の講義を通じて、相続がどのように行われるのか、そして、その際に、家族の間には、どのような問題が発生するのかについて理解する。	(1)相続法の基礎知識を取得する。 (2)相続法に関する己の問題意識に応じて、調査、考察できるようになる。	◎	◎		○
	家族法C	2	3	子ども虐待に関する法律や裁判例の学習を通じて、現代の子ども虐待に関する法制度を理解する。また、それらを踏まえて、子ども虐待に関する問題について考える。	(1)子ども虐待に対する法制度の基礎知識を取得する。 (2)子ども虐待に関する様々な問題について、調査、検討し、自己の意見を形成したうえで報告できる。	◎	○	○	◎
	商法A	2	3	会社法の概要を理解し、現代社会における会社の存在意義について考える。	(1)会社法の概要を理解する。 (2)現代社会における会社の存在意義について考える。	○	◎	◎	
	商法B	2	3	商法と会社法総則の概要を理解し、商法・会社法とその他私法との関係を理解する。	(1)商法と会社法総則の概要を理解する。 (2)商法・会社法とその他私法との関係を理解する。	○	◎	◎	
	経済法	2	3	独占禁止法の概要を理解し、独占禁止法の現代的な課題について考える。	(1)独占禁止法の概要を理解する。 (2)独占禁止法の現代的な課題について考える。	○	◎	◎	
	刑法B	2	3	刑法各論を学習をする。	(1)各犯罪類型の解釈上の諸問題を理解する。 (2)刑法解釈の背景にある諸理論の対抗軸を把握できる。	◎			○
	刑事訴訟法	2	3	刑事訴訟法を中心に、刑事手続全般について学習する。	(1)刑事訴訟法の理念と歴史を理解する。 (2)刑事訴訟法の重要論点について理解する。 (3)刑事訴訟法を憲法的基礎に基づいて説明できる。	◎		○	◎
	社会保障法A	2	3	社会保障の理念と意義について理解し、社会保障法の形成過程と現行法制度の概要を基礎的知識として身につけ、社会保障の法的課題を考察する。	(1)社会保障とはなにか、また、その特質について説明できる。 (2)日本の社会保障法の形成過程と現行法制度の概要について説明できる。 (3)社会保障の法的課題を考察できる。	◎			
	社会保障法B	2	3	社会保障法各論(公的扶助または社会福祉)を学習する。	(1)公的扶助制度または社会福祉制度の目的および原理・原則について説明できる。 (2)公的扶助または社会福祉の法制度を説明できる。 (3)公的扶助または社会福祉の法的課題を考察できる。	◎	◎		○
	社会保障法C	2	3	社会保障法各論(所得保障または医療保障)を学習する。	(1)所得保障制度または医療保障制度の目的および原理・原則について説明できる。 (2)所得保障または医療保障の法制度を説明できる。 (3)所得保障または医療保障の法的課題を考察できる。	◎	◎		○

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
法学・ 行政学 コース 専門科目	行政学B	2	3	行政の構造と機能の発展過程をたどり、今日の行政改革が持つ意味、行政のグローバル化、中央-地方関係の変化やガバナンス論の意味を考える。	(1)行政の構造と発展過程について理解し、説明することができる。 (2)今日の地方分権やガバナンス改革の意味や意義、限界について理解し、説明することができる。	◎	◎	○	
	行政学C	2	3	日本や他国の行政の構造や運営をめぐる諸問題や理論について検討し、考察を加える。	(1)行政の構造や運営において、どのような問題が生じているのかを理解し、説明できる。	◎	◎	○	
	公共政策論A	2	3	公共政策をめぐる基礎知識、方法論、組織・制度、モデル、理論などについて概説する。	(1)公共政策を社会科学的・政策科学的に議論する際の方法論を理解する。 (2)公共政策の分類、それをめぐる組織や制度、政策過程のモデルなどの基礎知識を理解する。 (3)新公共管理論(NPM)を中心に、現代の公共政策の理論的な背景を理解する。		◎	◎	
	公共政策論B	2	3	公共政策を通じた現代社会の課題解決について、「新しい公共」の視点を踏まえながら実践的に考えていく。	(1)「新しい公共」の意味、およびそれを支えるサードセクターと法人制度について理解する。 (2)様々な政策課題について、その具体的な解決策を方法論を踏まえたディベートを通じて提示できる。		○	◎	○
	地方政治論A	2	3	戦後の日本政治の歴史を概観するとともに、地方政治の実態についても理解を深める。	(1)戦後から現在までの国会レベルの政治の歴史的な流れを説明できる。 (2)戦後から現在までの地方政治レベルの政治の実態を、茨城県を素材に理解する。	◎	◎	○	
	行政法C	2	3	地方公共団体の仕組みや権限、国等との関係、住民の権利義務等、地方自治法の基礎について学ぶ。	(1)地方自治法の基礎理論を理解する。 (2)国と地方公共団体、地方公共団体間、住民と地方公共団体の関係について、法的視点から考察できるようにする。 (3)地方自治法の諸問題について、習得した知識をもとに検討できるようにする。	◎	○		
	地方政治論B	2	3	地方政治の実態を踏まえつつ、戦後日本において地方政治はどのような存在意義を有していたのかについて概説する。	(1)選挙や統治に関する諸制度を理解する。 (2)47都道府県議会の実態を觀察し、全国の中で茨城県の政治はどのような特徴・地域性を有するのかを理解する。 (3)日本政治という大きな枠組みの中で、地方政治の存在意義を理解する。	◎	◎	○	
	国際法A	2	3	国際法の講義を通して、国際法の基礎知識や理念について理解し、自ら国際法を活用し働きかける能力を身につける。	(1)国際法に関する基礎知識を習得する。 (2)国際法の特徴、基本的理念について理解する。 (3)国際法を活用し、働きかける能力を身につける。	○	◎	◎	○
	国際法B	2	3	国際人権保障の理念と制度について学び、人権という視点から自らの考えを判断する能力を身につける。	(1)国際人権法の中心理念を理解する。 (2)国際人権保障制度を説明できる。 (3)国際人権問題に関する自らの問題意識を高め、個別的テーマについて調査・議論できる。	○	◎	◎	○
	公共哲学A	2	3	「公共」に関する政治哲学の蓄積を、代表的な論者の展開した「公共」観の概観、比較を通じて学習する。	(1)公共性がいかなる概念であり、社会においていかなる役割を果たすかを理解すること。 (2)多様な公共性観の相違が、いかなる問題に起因したのかを理解し説明できるようになること。	◎	◎		
	公共哲学B	2	3	複雑化・グローバル化の進む現代において、「公共」が直面する諸問題を、経済、家族、国家などとの関係で検討する。	(1)現代社会の抱える公共的な諸問題について、一定の見通しを身につけていること。 (2)抽象的な概念を用いて、こうした問題について論理的に意見を構築できるようになること。	◎	◎	○	
	労働法A	2	3	採用内定、賃金、労働時間、配転、懲戒、解雇など、入社してから退社するまでに関わる労働法の基本的な知識を学ぶ。	(1)入社してから退社するまでに関わる基本的な労働法の知識を習得する。 (2)労働問題に直面した際に、問題解決の糸口を見つけることができる。	◎	◎	○	◎
	労働法B	2	3	労働組合法の意義および問題点を学ぶとともに、労働者の人格権の問題、企業組織再編と労働関係の問題など、労働法の先端的分野の基礎を学ぶ。	(1)労働組合法および労働法の先端的分野の基本的な内容を理解する。 (2)労働問題に直面した際に、どのような紛争解決機関を利用できるかを考察することができる。	◎	◎	○	◎

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
経済学・経営学コース専門科目	専門ゼミナールA～D	各2	3～4	法学・行政学における自らの専門分野について、その知識・考え方・技法を応用して卒業論文の執筆ができるよう、情報収集・分析・整理・報告・議論の技法を訓練する。	(1)自らの専門分野の知識と考え方を修得する。	◎	◎		
					(2)自らの専門分野の技法を応用することができる。		○	◎	◎
	経済学概論A	2	2	近代経済学の基本知識を修得し、今後の専門科目の理解を促進させるため、ミクロ・マクロ経済学の基礎理論を身につける。	(1)近代経済学の基礎知識を身につける。	◎	○		
					(2)近代経済学の基礎理論を理解できる。	◎	◎	○	
	経済学概論B	2	2	政治経済学の基礎理論を修得し、今後の専門科目の理解を促進させるための、政治経済学の概念と基礎理論を身につける。	(1)政治経済学の基礎概念を身につける。	◎	○		
					(2)政治経済学の基礎理論を身につける。	◎	◎	○	
	経営学概論	2	2	社会の中で企業が果たす役割を理解するとともに、企業経営を考察する上での基本的事項について理解する。	(1)経営学上の基本的概念について理解できるようになる。	◎	○	○	
					(2)社会における企業の果たしている役割について理解する。	◎	◎	○	
					(3)社会で生じる経営的事象を自ら関連づけて理解することができる。	○	◎	◎	○
	会計学概論	2	2	会計関連科目を学ぶ上での基本的な知識を身につける。	(1)会計学上の基本的概念について理解できるようになる。	◎	○	○	
					(2)複式簿記を用いて決算、財務諸表の作成ができる。	○	○	○	○
					(3)社会で生じる会計的事象を理解することができる。	○	◎	◎	○
	経済史A	2	2	資本主義生成期から第二次大戦後までの世界経済の歴史を学ぶ。	(1)世界の経済社会の歴史に関する基礎的な知識を身につける。	◎			
					(2)世界の経済社会の歴史を多面的に説明できる。	○	○		
					(3)歴史的な視点から世界の経済社会を考察することができる。	○	◎	○	○
経済史B	2	2	幕末開港期から第二次大戦期までの日本経済の歴史を学ぶ。	(1)日本の経済社会の歴史に関する基礎的な知識を身につける。	◎				
				(2)日本の経済社会の歴史を多面的に説明できる。	○	○			
				(3)歴史的な視点から日本の経済社会を考察することができる。	○	◎	○	○	
日本財政論	2	2	日本財政の基本的仕組みを理解し、財政現象を理解するための基礎知識を身につける。	(1)日本財政の基本的仕組みを理解する。	◎	○			
				(2)日本の財政統計を理解し、財政の基礎理論を身につける。	◎	◎	○		
金融論	2	2	資金の流れを中心に、金融仲介が経済に果たす役割や意義を中心に、金融とは何かについて基礎から学ぶ。	(1)金融論の基礎知識を理解する。	◎	○			
				(2)学んだ知識をベースに時事問題にも関心を持つ。	◎	◎	○	○	
				(3)諸問題に自分なりに考える力を身につける。		◎	○	○	
現代経済学	2	2	新聞の経済記事の内容を理解するのに必要な入門的なマクロ経済学の理論を学ぶ。経済成長率とは何か、景気とは何か、景気はなぜ変わるのか、政府はどのような政策をとれるのか、などがテーマとなる。	(1)マクロ経済学における、もっとも基礎的な概念である国民経済計算や主要な経済指標が理解できる。	○	◎	○		
				(2)短期的な景気変動に対する政策について、有効需要の原理やIS-LM分析によって考察することができる。	○	◎	○		
ミクロ経済学A	2	2	ミクロ経済学の基本的な知識を習得し、市場における資源配分のメカニズムを効率性という視点から理論的に検討する。	(1)ミクロ経済学に関する基礎的な概念、知識を身につける。	◎	○			
				(2)経済学のロジックを理解し、市場メカニズムを説明できる。	◎	◎			
				(3)経済学のロジックを用いて様々な経済問題を考えることができる。	○	◎	○	○	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
経済学・経営学コース専門科目	日本経済論A	2	2	戦後復興期から高度成長の終焉までの日本経済の発展過程を跡付け、日本経済と日本型経済システムの直面する課題を考えるための基礎知識を提供する。	(1)戦後復興期から高度成長の終焉までの日本経済の発展過程を理解する。	◎			
	経済政策論A	2	2	経済政策の現代的課題について、経済政策論の基礎概念を用いて検討し、より望ましい経済政策について考える。	(1)経済政策論の基礎概念を身につける。	◎	○		
					(2)経済政策の現代的課題を理解し、説明できる。	◎	◎		
					(3)様々な政策課題について自分なりに考えることができる。	○	◎	○	○
	仕事の経済学	2	2	企業の雇用戦略や具体的な人事労務管理に関する基礎的な知識を習得し、自己のキャリアや生き方を展望する。	(1)企業の雇用戦略や人事労務管理に関する基礎的知識を身につける。	◎	○		
					(2)労働諸条件や職場の問題および勤労者の権利について基礎的知識を身につける。	◎	◎		○
					(3)自分の将来のキャリアや働き方を考え、今後の生き方を展望できる。	○	◎	◎	○
	経営管理論A	2	2	企業における経営管理を考察する上で基本的な事項を理解し、それを基に、現代社会における企業経営の課題について考察できるようになる。	(1)企業経営における基本的論理を理解できるようになる。	◎	○	○	
					(2)企業経営における基本的諸課題を理解できるようになる。	◎	◎	○	
					(3)現代社会における企業経営上の課題を自ら情報収集できるようになる。	○	◎	◎	○
財務会計論	2	2	財務会計の基礎を、まず、会計情報の利用者に提供される財務諸表がどのような理論に基づき作成されるのかを、会計の柔軟性(=操作可能性)と関連させて検討する。その後、実際に開示された財務諸表を基に財務分析手法を検討する。	(1)会計理論の習得を通して、財務諸表の基本的な仕組みを理解できる。	○	◎	○		
				(2)財務諸表の実践的な分析ができるようになる。		○		○	
原価計算論	2	2	企業における原価計算の基礎として、原価計算制度上の費目別、部門(活動)別、製品原価計算を理解し、さらにさまざまな生産・販売条件下での原価計算を検討する。	(1)原価の意義、分類を理解し、基本的な費目別、部門(活動)別、製品別計算ができる。		◎			
				(2)さまざまな生産・販売条件下での原価計算の仕組みを理解する。		◎			
地域金融論A	2	2	この講座では、日本の金融システムにおける地域金融の現状やその課題について考察するために必要となる「金融論」の基礎概念ならびに理論を習得することを目的としている。	(1)地域を支える中小企業金融機関(特に信用金庫)の理解に必要な「銀行システムの仕組み」について経済学的なロジックを用いて説明ができる。	◎	◎	◎		
				(2)「金融政策」における中央銀行および市中銀行の資金やり取りのメカニズムや信用創造メカニズムの基礎となる理論を用いて、金融市場や日本経済についての現状を考えることができる。	○	◎	◎	○	
マーケティング論A	2	2	企業が直面している課題を理解し、どのようにして顧客対応能力を高めているか、考える力を身につける。	(1)企業活動の構造や特徴に関する基礎的な知識を身につける	◎	○			
				(2)顧客対応に関する諸問題に関心を持つ	○	◎	◎	○	
				(3)講義で身につけた考え方に基いた意見ができる		◎	◎	◎	
コース・ゼミナールA	1	2	経済学・経営学コースに所属する学生を対象に、3年次以降の専門演習への橋渡しとなるとともに、コース内教育の柱として、ゼミナール形式の授業を通して、当コースの学問領域における基本的な知識、考え方、方法論を身に付ける。	(1)経済学・経営学の諸分野について、基本的な知識や考え方を身に付ける。	◎	○			
				(2)経済学・経営学の諸分野について、自らの課題・テーマを設定できるようにする。		◎	○		
				(3)経済学・経営学の諸分野について、情報収集・分析・整理、報告・議論の技法を身に付ける。		◎	◎	◎	
コース・ゼミナールB	1	2	経済学・経営学コースに所属する学生を対象に、3年次以降の専門演習への橋渡しとなるとともに、コース内教育の柱として、ゼミナール形式の授業を通して、当コースの学問領域における基本的な知識、考え方、方法論を身に付ける。	(1)経済学・経営学の諸分野について、基本的な知識や考え方を身に付ける。	◎	○			
				(2)経済学・経営学の諸分野について、自らの課題・テーマを設定できるようにする。		◎	○		
				(3)経済学・経営学の諸分野について、情報収集・分析・整理、報告・議論の技法を身に付ける。		◎	◎	◎	
財政学A	2	3	財政学の基礎的な知識を修得し、現代国家の役割と機能について、基礎的理論と制度を勉強する。	(1)財政学に関する基礎的な概念と知識を身につける。	◎	○			
				(2)財政学の理論と財政制度を理解し、財政現象を説明できる。	◎	◎			
				(3)財政学の理論と財政制度を応用し、様々な財政問題を考えることができる。	○	◎	○	○	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
経済学・経営学コース専門科目	財政学B	2	3	財政学の基礎的な理論を理解し、財政制度及び財政現象に関する理論的アプローチを財政問題の解明に応用する。	(1)財政学に関する基礎的な概念と知識を身につける。 (2)財政学の理論と制度を理解し、財政現象を説明できる。 (3)財政学の理論と財政制度を応用し、様々な財政問題を考えることができる。	◎	○		
	金融システム論	2	3	経済システムにおける金融の機能に関して基本的な知識を習得し、経済システムや経済政策の役割の理解の深堀りができるようになることを目標とする。	(1)より専門的な講義内容を理解する。 (2)金融システムの仕組みと安定の重要性を理解する。 (3)諸問題に自分なりに考える力を身につける。	○	◎		
	マクロ経済学A	2	3	長期の経済的通しに必要なマクロ経済の長期均衡や、経済成長に関する標準的な理論をやや進んだレベルで学びます。	(1)マクロ経済データを通して経済成長が理解できる。 (2)マクロ経済学における経済成長の意味について理解する。	○	◎	○	
	マクロ経済学B	2	3	マクロ経済の短期的変動と、それに対する財政・金融政策に関する理論を学ぶ。	(1)短期の経済変動について各種データを通して理解する。 (2)短期の経済変動に対する経済政策についての理論を理解する。	○	◎	○	
	ミクロ経済学B	2	3	ミクロ経済学の基本的な知識、考え方を習得し、市場メカニズムへの理論的アプローチを様々な社会問題の解明に応用する。	(1)ミクロ経済学に関する基礎的な概念、知識を身につける。 (2)経済学のロジックを理解し、市場メカニズムを説明できる。 (3)経済学のロジックを用いて様々な社会経済問題を考えることができる。	◎	○		
	日本経済論B	2	3	1970年代後半から現在に至る日本経済の経験を跡付け、日本経済と日本型経済システムの直面する課題を考えるための基礎知識を提供する。	(1)1970年代後半から現在に至る日本経済の経験を理解する。 (2)日本経済と日本型経済システムの直面する課題を考えるための基礎知識を身につける。	◎			
	経済政策論B	2	3	経済政策について、近代経済学の体系性を重視して理論的に検討し、それを政策課題の分析評価に応用する。	(1)経済政策論の基礎知識を身につける。 (2)経済政策論の基礎知識を応用し、様々な政策課題について、より望ましい政策を自分なりに考えることができる。	◎	○		
	社会政策論	2	3	社会政策について歴史的・理論的に考察し、その必要性和意義を確認したうえで21世紀の政策課題を検討する。	(1)社会政策の今日的意義と課題を説明できる。 (2)労働・生活上の諸問題について国民の権利と政策制度に関する基礎知識を身につける。 (3)経済と国民生活の両面で豊かさを実現できる経済・社会政策を構想する力を養う。	◎	◎	○	○
	労働経済論	2	3	企業の雇用戦略、労働市場の構造、人事労務管理に関する専門的な知識を習得し、社会問題としての労働・生活問題について考察する。	(1)労働市場の階層構造を理解し、企業の雇用戦略と労働市場の構造の密接な関係について考察し、専門的な知識を身につける。 (2)企業の具体的な人事労務管理に関する専門的知識を身につける。 (3)勤労者の労働と生活の問題を考察し、その解決のための方策を構想できる。	◎	◎	○	○
	経営管理論B	2	3	現実の企業経営における具体的な現状と諸課題を理解し、その上で、今後のあるべき企業経営についての考察を行うことができる。	(1)企業経営の基本的論理を、現実の企業経営の中で理解できるようになる。 (2)現代社会における企業経営の諸課題を理解できるようになる。 (3)現代社会における企業経営の諸課題に対して自分なりの解決策を考えられるようになる。	◎	○	○	
	国際経営経済論A	2	3	世界の経済情勢の現状・歴史を踏まえつつ、国際的に経営活動を展開する先進国企業の戦略・組織変化の諸特徴を捉える。	(1)多国籍企業の定義、海外直接投資の理論の内容、その歴史の変遷を概観する。 (2)世界経済の理論・現状・歴史を踏まえつつ、国際経営戦略と組織の変化を分析・考察する。	◎	◎	○	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号				
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能	
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要				
経済学・経営学コース専門科目	国際経営経済論B	2	3	現代アメリカ経済における多国籍企業の展開とその位置・役割を考察・検討する。その展開過程の中で進展してきた「経営戦略」「競争戦略」の特徴を捉える。	(1)現代アメリカ経済の全体像を「産業構造」「企業行動」「労使関係」「社会政策」「金融不安の拡大」から捉える。 (2)アメリカ多国籍企業が国内経済にどのような影響を与えてきたか、論争史を概観しながら検討・考察する。	◎	◎	○		
	監査論	2	3	社会から広く資金調達する株式会社は、財務諸表を開示することで説明責任を果たさなければならず、その説明責任の解除は財務諸表の適正性を保証する財務諸表監査によっておこなわれる。こうした財務諸表監査の基本的な仕組みを理解する。	(1)財務諸表監査の基本的な仕組みを理解できる。 (2)財務諸表監査がどのようにおこなわれるか、監査手続と共に理解できる。	○	◎			
	管理会計論	2	3	企業の経営管理者による経営諸活動に関する意思決定、コントロールおよび業績評価を支援する管理会計の主要な技法、業績尺度を検討する。	(1)管理会計の基本的な技法を理解できる。 (2)企業の部門別、あるいはプロジェクト別の業績評価、経済性計算を理解する。		◎			
	地域金融論B	2	3	この講座では、地域金融論Aで習得した「金融論」の基礎概念ならびに理論をさらに深め、日本の金融システムにおける地域金融の現状やその課題について考察することを目的としている。	(1)中小企業金融の問題(特に「情報の非対称性」にかかわる問題)を経済学のロジックを用いて考えることができる。 (2)日本の金融システムの歴史的構造について理解し、「リレーションシップバンキング」の重要性等を説明できる。	○	◎	○	○	
	マーケティング論B	2	3	企業経営におけるマーケティング活動の意義を理解する。企業と市場・顧客の間で生じる課題を認識し、どのような対処が求められるのかを考える力を身につける。	(1)マーケティングに関する基礎的な知識を身につける (2)マーケティングに関する諸問題に関心を持つ (3)マーケティング思考に基づき意見ができる	◎	○			
	アジア経済論A	2	3	アジア経済論の基礎を学ぶ。	(1)アジア経済論の基礎知識を身に付ける。 (2)学んだ知識をベースに時事問題にも関心を持つ。 (3)諸問題に自分なりに考える力を身に付ける。	◎	○			
	アジア経済論B	2	3	アジア経済の現状と課題を学ぶ。	(1)アジア経済の現状に関する基礎的な知識を身に付ける。 (2)学んだ知識をベースに時事問題にも関心を持つ。 (3)諸問題に自分なりに考える力を身に付ける。	◎	○			
	専門ゼミナールA～D	各2	3～4	経済学・経営学における自らの専門分野について、その知識・考え方・技法を応用して卒業論文の執筆ができるよう、自らの専門分野の情報収集・分析・整理・報告・議論の技法を訓練する。	(1)自らの専門分野の知識と考え方を修得し、応用することができる。 (2)自らの専門分野に関する議論に参加し、自分なりの考え方を説明し、文章にまとめることができる。	◎	◎			
	地域研究・社会学コース専門科目	地域社会概論	2	2	地域社会をとらえるためのキーワードや具体例を通じて、地域社会とは何か、また地域社会を変える要因や主体について検討する。	(1)地域社会の仕組みを政治、経済、社会的側面から理解する。 (2)地域社会の具体例から何が問題となり、誰がその問題解決を図ってきたのかを理解する。	◎	◎	○	
		ヨーロッパ史概論	2	2	基礎的な知識・概念を整理しながら、ヨーロッパ近現代史を概観的に学ぶ。	(1)ヨーロッパ近現代の歴史を理解できるようになる。 (2)ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。 (3)基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。	◎			○
アジア学概論		2	2	東部(東・東南)アジアを対象とする地域研究について入門的な概略を説明する。	(1)東部アジアを対象とする地域研究史の概略を理解する。 (2)アジア諸地域と日本との関係に深い関心を持つようになること。	◎	○	○		

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
地域研究・社会学コース専門科目	社会学概論	2	2	現代社会の構造や変化について、社会的な見方や方法論を学ぶ。	(1)社会的な基礎概念に触れ、理解することができる。 (2)社会事象を読み解く社会学的方法を理解できる。 (3)具体的事例をより大きな社会の動きと関連付けて理解することができる。	◎	○		
	地誌学概論	2	2	地域の性格を自然環境や社会・経済環境、および歴史・文化環境から総合的に分析するという地誌学の基本的な考え方と方法論を学ぶ。	(1)地誌学のもつ「総合性」を理解する。 (2)地域を総合的に分析する視点を身につける。	◎	○		
	人文地理学A	2	2	景観や地図に表れる人間や社会の営みを分析するという人文地理学の見方・考え方を理解する。	(1)人文地理学からみた社会のとらえ方について理解する。 (2)地図や統計図表を通して地理的特徴を読み解く方法を修得する。	◎	○		
	自然地理学A	2	2	水と私たちの生活とのかかわりについて学ぶ。	(1)自然地理学の概念について理解することができる。 (2)水に関する諸問題について自然科学的見地のほか、人文・社会・経済的見地から理解できる。 (3)水と人間の生活とのかかわりについて問題意識をもって考えることができる。	◎	◎	○	
	地誌学A	2	2	地誌学の基本的な考え方と方法論を学ぶとともに、特定の地域ごとの地誌的知識を深めていく。	(1)地誌学の基本的な考え方と方法論を学ぶ。 (2)特定の地域の地誌的知識を学ぶ。	◎	○		
	国際関係論	2	2	国際社会の特質を理解するため、近代西欧国際社会の成立からその歴史を辿った上で、現在の国際システムの構造と過程を多面的に考察する。	(1)国際社会の特質を理解できる。 (2)国際社会の諸問題を国際社会の特質との関係で理解できる。	◎	◎		
	都市計画論A	2	2	近代都市計画の概要とその批判的検討を行い、市民参画型のまちづくりの重要性を学ぶ。	(1)近代都市計画の概要を理解し、実際に行われている都市計画について自分の考えを持つことができる。	◎	○	◎	○
	社会調査法	2	2	社会調査の概要と倫理、具体的な企画・設計の方法、さまざまな調査手法についての知識を身につけ、自ら調査・研究をする際の基礎を固めること、さらには大学卒業後にさまざまな分野で活動する際に役立つ調査リテラシーの獲得が期待される。	(1)社会調査の意義と、調査倫理を理解する。 (2)社会調査の具体的方法を理解する。 (3)調査結果を適切に加工・提示、さらには読み解くことができる。 (4)自ら調査し、研究するための基礎を固める。	◎	◎		○
	福祉社会学	2	2	福祉政策が対象化する「問題」群の社会的性格、「問題」が社会的に構築されていくプロセスについて、代表的な福祉関連「問題」領域を事例に、考察していく。	(1)「社会問題」とは何かということについて、社会的に理解する。 (2)高齢者福祉、障害者福祉など、福祉政策領域で「問題」とされてきたことについて、批判的に考察できるようになる。	◎	◎	◎	
	地域福祉論	2	2	「地域福祉」の概念、理念、そして制度が、歴史的にどのように登場し、どのような役割を担ってきたのかを学び、これからの地域福祉のあり方を構想する。	(1)地域福祉の概念を、福祉社会と福祉国家の歴史と現状を踏まえて理解できる。 (2)現代社会における地域福祉の意義と課題を、住民参加、当事者主権、社会的包摂の視点から考察できる。	◎	○		
平和学	2	2	テロや戦争、貧困、環境問題などはなぜ起こるのか。平和学の視点からは、開発主義が、不平等な世界構造で多くの問題の主因にみえる。授業では、これらの問題の基本的なとらえ方や考え方を中心に学ぶ。	(1)平和学の基礎的な立場を理解できるようになる。 (2)グローバルな諸問題の構造を理解できるようになる。 (3)暴力の克服法について、自ら考え、判断し、行動できるようになる。	◎	○			

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
地域研究・社会学コース専門科目	現代社会論A	2	2	現代社会の諸問題を社会学的概念を用いて理解する(グローバル化をテーマとする)。	(1)社会学の基礎的概念を身につける。	◎	◎		
					(2)テーマに即して適切な分析概念を選択できる。				◎
					(3)授業のテーマとなっている社会問題について多面的な理解ができる。	○			
					(4)授業のテーマとなっている社会問題について学問的批判ができる。	○		◎	
	現代社会論B	2	2	現代社会の諸問題を社会学的概念を用いて理解する(社会階層をテーマとする)。	(1)社会学の基礎的概念を身につける。	◎	◎		
					(2)テーマに即して適切な分析概念を選択できる。				◎
					(3)授業のテーマとなっている社会問題について多面的な理解ができる。	○			
					(4)授業のテーマとなっている社会問題について学問的批判ができる。	○		◎	
	コース・ゼミナールA	1	2	地域研究・社会学の主要分野の基本的テーマについてゼミ形式で文献講読、討論を行い、専門演習で本格的に実践する専門分野の情報収集・分析・整理・報告・議論の技法の基礎訓練を行う。	(1)地域研究・社会学を学ぶ上で必要となる、主要分野の基本的な知識や方法論を身につける。	◎	◎		
					(2)地域研究・社会学を学ぶ上で必要となる、情報の収集・発信、議論に関する基本的な技能を身につける。			○	◎
コース・ゼミナールB	1	2	地域研究・社会学の諸分野の基本的テーマについてゼミ形式で文献講読、討論、研究発表を行い、専門演習で本格的に実践する専門分野の情報収集・分析・整理・報告・議論の技法の応用訓練を行う。	(1)地域研究・社会学の諸分野について、基本的な知識や方法論を身につける。	◎	◎			
				(2)地域研究・社会学を学ぶ上で必要となる、情報の収集・発信、議論に関する基本的な技能を応用できる。			○	◎	◎
人文地理学B	2	3	観光やツーリズム、あるいは余暇活動という現象を取り上げ、それらを人文地理学の立場から理解する。	(1)様々なツーリズムの展開プロセスを、それぞれの立地環境や社会経済的環境から理解する。	○	◎	◎	○	
				(2)ツーリズムがもたらす地域変容や地域振興など、地域への影響を理解する。	○	◎	◎	○	
人文地理学C	2	3	都市の形成や構造について地理学的に分析し理解する。	(1)人文地理学の概念について理解できる。	◎	◎			
				(2)都市の発展過程、機能および都市構造について理解できる。	○	◎			
				(3)現代の都市における社会問題について批判的に分析し、問題解決の方向を考察できる。	◎	◎	◎	○	
人文地理学D	2	3	グローバリゼーションと人の移動にともなう空間/場所/社会の変容について理解する。	(1)人文地理学の概念について理解できる。	◎	◎			
				(2)人の移動にともなう空間の変容過程について理解できる。	○	◎		○	
				(3)現代における移民と多文化共生のあり方について積極的に考えることができる。	◎	◎	◎	○	
人文地理学E	2	3	人文地理学の重要性について学ぶ。	(1)人文地理学の概念について理解できる。	◎	◎			
				(2)地理学の基本概念である地域や景観について理解できる。	◎	○		○	
				(3)地理学の研究意義・目的と方法・学術用語について理解できる。	◎	◎		○	
地誌学B	2	3	アジアにおける地誌について理解する。	(1)地誌学とはなにかを理解できる。	◎	◎			
				(2)アジアの地誌について基礎的な知識を得て、どのような特徴があるか理解できる。	○				
				(3)アジアの世界における位置づけ、日本のアジアにおける位置づけについて考察できる。	○		◎	○	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
地域研究・社会学コース専門科目	ヨーロッパ社会史A	2	3	ドイツ近代史を学びながら、第二次世界大戦後の社会における歴史認識の日独比較を行う。	(1)ドイツ近現代の歴史を理解できるようになる。	◎			
					(2)ドイツ近現代史を学ぶことによって歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。	○	◎		
					(3)基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。		◎		○
	ヨーロッパ社会史B	2	3	ヨーロッパ世界という視野の中で第二次世界大戦後のドイツ史を学ぶ。	(1)ドイツの第二次世界大戦後の歴史を理解できるようになる。	◎			
					(2)ドイツ戦後史を学ぶことによって歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。	○	◎		
					(3)基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。		◎		○
	国際政治学	2	3	現在の国際体系は、性質上、多くの問題をかかえている。そこでの安全保障のために、多くの社会問題が引き起こされている。この授業では、現代国際政治における安全保障とその諸課題について学ぶ。	(1)現代の国際社会の性質を理解できるようになる。	◎			
					(2)国際安全保障のあり方と現代的な脅威を理解できるようになる。	◎	○		
					(3)上記2点について、自ら考え、判断できるようになる。		◎		○
	アジア政治論	2	3	東南アジア地域の特徴を多面的に捉えつつ、同地域の政治と国際関係について理解する。	(1)東南アジア地域概念を理解する。	◎	○	○	
					(2)東南アジアの歴史的背景を理解する。	◎	○	○	
					(3)東南アジア諸国の政治と国際関係を理解する。	◎	○	○	○
(4)日本と東南アジアの関係につき考えることが出来る。					◎	○	○	○	
国際関係特論	2	3	現在の国際社会の特質と動向を理解し、日本と国際社会との関係を考える。	(1)現在の国際社会の特質と動向を理解できる。	◎	○	○		
				(2)国際社会における日本の位置を分析できる。	◎	○	○	○	
				(3)日本と他の国/地域との関係を理解できる。	◎	○	○	○	
アジア社会論A	2	3	東南アジア地域を出来る限り多面的に認識し、この地域と日本との関係を考察する。	(1)東南アジア地域を多面的に認識する。	◎	◎	○		
				(2)日本と東南アジア地域との関わりの近現代史を理解する	◎	◎	○		
アジア社会論B	2	3	「東アジア共同体」を歴史、政治、経済、国際関係および各国からの視点から検討する。	(1)東アジア共同体構想の基本的な考え方を理解する。	◎	◎	○		
				(2)東アジア共同体の可能性と課題を考えていくことが出来るようになること。	◎	◎	○		
都市計画論B	2	3	主に地方都市・水戸の近世から現代までのまちづくりの歴史を学ぶ。	(1)地方都市のまちづくりの経過がわかる。	○	○	◎	◎	
福祉国家論	2	3	イギリスと日本における福祉国家の形成とあゆみを理解する。	(1)イギリスと日本における福祉国家の形成とあゆみを理解。	◎	◎			
				(2)福祉国家が今日直面している環境条件と課題を理解する。	◎	◎			
職業社会学	2	3	日本の雇用の変化と課題。	(1)日本の雇用といわれるものの仕組み・機構を理解する。	◎	◎			
				(2)日本の雇用が直面している環境条件と課題を理解する。	◎	◎			
地域社会論	2	3	現代の地域社会をめぐる議論や課題を、日本の特性に注意しながら講義する。	(1)地域社会で、何が問題となり、誰がその問題解決を図ってきたのかを歴史的に理解する。	◎	◎	○		
				(2)グローバリゼーションや外国の事例と照らし合わせながら、地域社会の多様な姿を自分なりに分析できる。	◎	◎	○		

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
地域研究・社会学コース専門科目	福祉政策論	2	3	ジェンダー論、家族社会学、地域社会学の知見をふまえて現代社会における福祉政策の社会的性格とその問題点について考察する。	(1)福祉政策が「家族」、「地域社会」、「市場」、「国家」の役割分担にかかわるものであることを理論的に理解する。 (2)高齢者介護や子どもの保育など、主要な福祉労働とそれをとりまく福祉政策をジェンダーの視点から理解する。	○	◎	◎	
	環境政策論	2	3	環境政策の歴史的展開について理解するとともに、市民社会における環境政策形成について考察する。	(1)環境政策の形成と運用、経済政策との関連、環境運動やNPOなどの役割について理解する。 (2)多様な視点から環境政策評価ができる。	◎			
	生活保障論	2	3	生活保障をめぐる理念、制度、歴史を学ぶ。	(1)生活保障の基本概念を理解する。 (2)生活保障の理念、制度、歴史の基礎知識を身につける。 (3)生活保障のあり方を多面的に考察できる。	◎	◎		
	環境社会学	2	3	現代社会が直面する環境問題の社会的背景や解決、各主体の役割について考える。	(1)環境問題を人間社会の問題として理解する。 (2)自然環境との共生のしくみ、環境再生の動きを理解する。 (3)具体的な事例をより大きな社会の動きと関連付けて考察できる。	◎	○		
	社会意識論	2	3	社会意識について主に社会学の観点から理解し、自らの考え方や価値観を相対化しつつ、自身が生きる社会に対する想像力を培うことが期待される。	(1)社会意識を捉えようとする社会学の営みについて理解する。 (2)自分をとりまく社会における社会意識の実情をデータから理解する。 (3)上記2つの理解に照らして自らの考え方や価値観を相対化できる。	◎	○		○
	環境・経済・社会	2	3	環境経済学の基礎的な考え方を紹介するとともに、具体例を挙げながら環境やサステナビリティに関する諸課題に対するバランス感覚を身につける。	(1)環境問題のメカニズムを理解する。 (2)環境、経済、社会の相互作用、とりわけ環境経済学的な視点を身につける。 (3)課題解決に向けた分析や意見を提示することが出来る。	◎	◎	○	◎
	経済地理学A	2	3	経済地理学の基礎理論を学び、それに関わる現代の問題について考える。	(1)経済地理学の基礎理論を理解する。 (2)地表面に現れる経済的事象を、地理学的(空間的)視点から考察を加えることができる。	○	○	○	
	経済地理学B	2	3	経済地理学に関わる現代の問題について、その要因やメカニズムを理解して、解決への方策を考える。	(1)地表面に現れる経済的事象の要因やメカニズムを理解できる。 (2)経済地理学に関わる地域問題について、解決に向けた課題を考えることができる。	○	○	○	
専門ゼミナールA～D	各2	3～4	地域研究・社会学分野について、その知識・考え方や技法を応用して卒業論文の執筆ができるよう、自らの専門分野の情報収集・分析・整理・報告・議論の技法を訓練する。	(1)自らの専門分野の知識と考え方や調査研究方法等を修得し、応用することができる。 (2)自らの専門分野に関する議論に参加し、自分なりの考え方を説明し、文章にまとめることができる。	◎	◎		◎	
学部共通科目	地域連携論Ⅰ	2	2	働く意義・学ぶ意味を地域社会、学生、教員と一緒に考える。	(1)社会における企業の役割を理解する。 (2)企業・社会とのコミュニケーションの中で、自らの問題意識を深めることができる。 (3)自分の将来について主体的に考え行動する。	○	◎		◎
	地域連携論Ⅱ	2	2	働く意義・学ぶ意味を地域社会、学生、教員と一緒に考える。	(1)社会とはどこをどこかを大まかに理解する。 (2)大学の勉強がいかに役立つのかを理解する。 (3)自分の将来について主体的に考え行動する。	○		○	◎

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
学部共通科目	プロジェクト実習A(スタッフ編)	2	2	学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習B(スタッフ編)	2	2	学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習C(スタッフ編)	2	2	学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習D(スタッフ編)	2	2	学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習A(リーダー編)	2	3	学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習B(リーダー編)	2	3	学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習C(リーダー編)	2	3	学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習D(リーダー編)	2	3	学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。			◎	◎
	プロジェクト実習A(メンター編)	2	4	学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。			◎	◎

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要			
学部共通科目	プロジェクト実習B(メンター編)	2	4	学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。			◎	◎
	プロジェクト実習C(メンター編)	2	4	学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。			◎	◎
	プロジェクト実習D(メンター編)	2	4	学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加	(1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。			◎	◎
	実践連携科目A	2	3	しっかりした知識に基づくキャリア構想構築の支援	(1)社会人・職業人としての基礎知識をブラッシュアップする。 (2)進路選択に役立つ基礎技能を獲得する。	○			◎
	実践連携科目B	2	3	しっかりした知識に基づくキャリア構想構築の支援	(1)社会人・職業人としての基礎知識をブラッシュアップする。 (2)進路選択に役立つ基礎技能を獲得する。	○			◎
	インターンシップA	2	2	実施期間が2週間(実質10日前後)のインターンシップ	(1)企業や公的機関において現実的課題についての認識と課題解決の能力を習得する。 (2)実務の中で用いられる知識や技術の一端に触れることによって、自己の研究に役立てる。 (3)自らの職業適性や将来の職業選択について考える機会を提供する。			○	○
	インターンシップB	1	2	実施期間が1週間(実質5日前後)のインターンシップ	(1)企業や公的機関において現実的課題についての認識と課題解決の能力を習得する。 (2)実務の中で用いられる知識や技術に十分触れることによって、自己の研究を一層深化させる。 (3)自らの職業適性や将来の職業選択について具体的に考える機会を提供する。			○	○
	観光学入門	2	2	観光学の基礎知識を取得し、基本概念を学ぶ。	(1)観光の視点から内外の社会事情を学ぶことにより、現代社会が直面している諸問題を知る。 (2)観光事例の学習を通して、観光学の研究方法の基礎を身につける。 (3)現代社会の諸問題について考察を行い、その解決法を模索し、論理的な文章で表現することができる。	◎			
	地域課題特論 I A	2	2	行政や企業などの講師による講義を通じて、地域にどのような課題が生じているかを考える。	(1)地域において行政や企業などのセクターがどのように機能しているかを理解する。 (2)行政や企業などのセクターから見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。	◎	◎	○	
地域課題特論 I B	2	2	行政や企業などの講師による講義を通じて、地域にどのような課題が生じているかを考える。	(1)地域において行政や企業などのセクターがどのように機能しているかを理解する。 (2)行政や企業などのセクターから見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。	◎	◎	○		

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
学部 共通 科目	地域課題特論ⅡA	2	3	地域の様々な職業的背景を持つ専門家とともに、地域にどのような課題が生じているかを考える。	(1)地域において様々な職業の専門家がどのように活動しているかを理解する。	◎	◎	○	
					(2)地域の様々な職業的背景を持つ専門家から見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。	◎	◎	○	
	地域課題特論ⅡB	2	3	地域の様々な職業的背景を持つ専門家とともに、地域にどのような課題が生じているかを考える。	(1)地域において様々な職業の専門家がどのように活動しているかを理解する。	◎	◎	○	
					(2)地域の様々な職業的背景を持つ専門家から見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。	◎	◎	○	
	地域課題演習	2	3	地域の課題について、地域の指導的な専門家とともに討論し、自分の問題関心を深めていく。	(1)地域の様々な課題を、地域の専門家との討論を通じて、自分の専門的見と関連づけながら発見できる。	◎	◎	◎	○
					(2)地域の様々な課題に対する解決策を、地域の専門家との討論を通じて、自分の専門的知見と関連づけながら論理的に議論できる。	◎	◎	◎	○
	地域課題研究	2	4	地域の特定の課題について、自分の問題関心と専門的な知見を生かしながら、チームを組んで総合的・実践的に研究していく。	(1)自分と他の受講生の異なる専門的知見を総合しながら、地域の特定の課題を発見し、それに対する解決策を提示できる。	◎	◎	◎	◎
					(2)チームによる調査を実践できる。	◎	◎	◎	◎
					(3)調査結果や課題と解決策の目的・手段関係をプレゼンテーションできる。	◎	◎	◎	◎
	情報リテラシー	2	2	情報処理の自動化について学び、コンピュータの活用能力、及び問題解決に活用でき得る能力を身につける。	(1)表計算ソフト関数を習得する。	○			◎
				(2)情報処理の自動化について基礎的に理解する。	○			◎	
				(3)プログラミング作成の技能を習得する。	○			◎	
英作文Ⅰ	2	2	英語の文書作成の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。				◎	
				(2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。				◎	
				(3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。				◎	
				(4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる。	○	○		◎	
英作文Ⅱ	2	2	英語の文書作成の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。				◎	
				(2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。				◎	
				(3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。				◎	
				(4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる。	○	○		◎	
英作文Ⅲ	2	2	英語の文書作成の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。				◎	
				(2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。				◎	
				(3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。				◎	
				(4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる。	○	○		◎	
英作文Ⅳ	2	2	英語の文書作成の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。				◎	
				(2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。				◎	
				(3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。				◎	
				(4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる。	○	○		◎	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
学部 共通 科目	英会話 I	2	2	英会話の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。				◎
					(2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。				◎
					(3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。				◎
					(4)最終的に5～10分のスピーチをできる。	○	○		◎
	英会話 II	2	2	英会話の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。				◎
					(2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。				◎
					(3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。				◎
					(4)最終的に5～10分のスピーチをできる。	○	○		◎
	英会話 III	2	2	英会話の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。				◎
					(2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。				◎
					(3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。				◎
					(4)最終的に5～10分のスピーチをできる。	○	○		◎
英会話 IV	2	2	英会話の基礎訓練	(1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。				◎	
				(2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。				◎	
				(3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。				◎	
				(4)最終的に5～10分のスピーチをできる。	○	○		◎	
Advanced Reading I	2	2	英語で書かれた一次資料の読み方の訓練	(1)英語の文章の内容をパラグラフを基礎単位として読み取ることができる。	◎	◎	○	◎	
				(2)英語の文章全体の構造を基礎として、文章全体の内容を要約することができる。	◎	◎	○	◎	
Advanced Reading II	2	2	英語で書かれた一次資料の読み方の訓練	(1)英語の文章の内容をパラグラフを基礎単位として読み取ることができる。	◎	◎	○	◎	
				(2)英語の文章全体の構造を基礎として、文章全体の内容を要約することができる。	◎	◎	○	◎	
Advanced Reading III	2	3	英語で書かれた一次資料の読み方の訓練	(1)英語の文章の内容をパラグラフ単位で読み取ることができる。	◎	◎	○	◎	
				(2)英語の文章全体の構造を基礎として、文章全体の内容を要約することができる。	◎	◎	○	◎	
Advanced Writing I	2	2	英語で論文を書くための訓練	(1)パラグラフ構造を基礎にして、英語でまとまった文章をかくことができる。	◎	◎	○	◎	
				(2)文脈に応じて英語の構文を適切に使用することができる。			○	◎	
				(3)英語の文法事項を使いこなし、英語でOKな表現かダメな表現かを自分で予測しながら文章を作成できる。				◎	
Advanced Writing II	2	3	英語で論文を書くための訓練	(1)パラグラフ構造を基礎にして、英語でまとまった文章をかくことができる。	◎	◎	○	◎	
				(2)文脈に応じて英語の構文を適切に使用することができる。			○	◎	
				(3)英語の文法事項を使いこなし、英語でOKな表現かダメな表現かを自分で予測しながら文章を作成できる。				◎	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
学部 共通 科目	Advanced Speaking	2	3	英語で発表を行う実戦的訓練	(1)適切な分節音の発音で発話ができる。			○	◎
					(2)文脈に応じて適切な抑揚をつけて英語が発音できる。			○	◎
					(3)(1)と(2)を前提として、学問的な内容について、まとまった話を英語で語るができる。	◎	◎	○	◎
	Advanced Presentation	2	3	英語で発表を行う実戦的訓練	(1)適切な分節音の発音で発話ができる。			○	◎
					(2)文脈に応じて適切な抑揚をつけて英語が発音できる。			○	◎
					(3)(1)と(2)を前提として、学問的な内容について、まとまった話を英語で語るができる。	◎	◎	○	◎
	Language and Culture in Japan A	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○
					(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。	◎	◎	◎	○
	Language and Culture in Japan B	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○
					(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。	◎	◎	◎	○
	Language and Culture in Japan C	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○
					(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。	◎	◎	◎	○
	Language and Culture in Japan D	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○
(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。					◎	◎	◎	○	
Language and Culture in Japan E	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○	
				(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。	◎	◎	◎	○	
Language and Culture in Japan F	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○	
				(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。	◎	◎	◎	○	
Language and Culture in Japan G	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○	
				(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。	◎	◎	◎	○	
Langauge and Culture in Japan H	2	3	日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義	(1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。	◎	◎	◎	○	
				(2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。	◎	◎	◎	○	
英語学概論	2	2	現代英語の仕組み、歴史、位置づけについての講義	(1)現代英語の言語学的位置づけを理解できる。	◎	◎	○		
				(2)現代英語の発音、文構造、構文と意味のずれ、などの仕組みについて理解できる。	◎	◎	○		
				(3)英語の文法現象について、自分で考え、具体的事象についてレポートにまとめられる。	◎	◎	◎	◎	
英文法概説	2	2	現代英語の文法についての包括的な講義	(1)現代英語の文構造の仕組みについて、普遍性と特殊性にわけて理解できる。	◎	◎	○		
				(2)現代英語の文構造と意味の対応関係について理解できる。	◎	◎	○		
				(3)現代英語の文法現象について、自分で考え、具体的事象についてレポートにまとめられる。	◎	◎	◎	◎	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
学部 共通 科目	ドイツ語演習Ⅰ	2	2	ドイツ語の読解力を養成する	(1)やさしいドイツ語の文章を辞書を用いて読むことができる。	○			
					(2)テキストの内容について具体的に説明することができる。				○
					(3)ドイツ語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。				○
	ドイツ語演習Ⅱ	2	2	ドイツ語の読解力を養成する	(1)やさしいドイツ語の文章を辞書を用いて確実に読むことができる。	○			
					(2)テキストの内容について具体的に説明することができる。				○
					(3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○
	ドイツ語演習Ⅲ	2	3	ドイツ語の読解力を養成する	(1)やさしいドイツ語の文章を辞書を用いて十分に読むことができる。	○			
					(2)テキストの内容について具体的に説明することができる。				○
					(3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○
	ドイツ語作文Ⅰ	2	2	ドイツ語の作文力を養成する	(1)やさしいドイツ語の文章を作文することができる。	○			
					(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○
					(3)ドイツ語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。				○
ドイツ語作文Ⅱ	2	3	ドイツ語の作文力を養成する	(1)やさしいドイツ語の文章を確実に作文することができる。	○				
				(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○	
ドイツ語作文Ⅲ	2	3	ドイツ語の作文力を養成する	(1)やさしいドイツ語の文章を十分に作文することができる。	○				
				(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○	
ドイツ語会話Ⅰ	2	2	ドイツ語の会話力を養成する	(1)やさしいドイツ語の会話をおこなうことができる。	○				
				(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)ドイツ語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。				○	
ドイツ語会話Ⅱ	2	3	ドイツ語の会話力を養成する	(1)やさしいドイツ語の会話を確実にこなうことができる。	○				
				(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○	
ドイツ語会話Ⅲ	2	3	ドイツ語の会話力を養成する	(1)やさしいドイツ語の会話を十分におこなうことができる。	○				
				(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○	

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
学部 共通 科目	フランス語演習 I	2	2	フランス語の読解力を養成する	(1)やさしいフランス語の文章を自力で読むことができる。	○			
					(2)テキストの内容について具体的に説明することができる。				○
					(3)フランス語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。				○
	フランス語演習 II	2	2	フランス語の読解力を養成する	(1)やさしいフランス語の文章を自力で確実に読むことができる。	○			
					(2)テキストの内容について具体的に説明することができる。				○
					(3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○
	フランス語作文 I	2	2	フランス語の作文力を養成する	(1)やさしいフランス語の文章を自力で作文することができる。	○			
					(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○
(3)フランス語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。								○	
フランス語作文 II	2	3	フランス語の作文力を養成する	(1)やさしいフランス語の文章を自力で確実に作文することができる。	○				
				(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○	
フランス語作文 III	2	3	フランス語の会話力を養成する	(1)やさしいフランス語の文章を自力で十二分に作文することができる。	○				
				(2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)フランス語検定試験3級合格以上の実力を身につけることができる。				○	
フランス語会話 I	2	2	フランス語の会話力を養成する	(1)やさしいフランス語の会話を自力でおこなうことができる。	○				
				(2)会話の内容について、ある程度まで具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)フランス語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。				○	
フランス語会話 II	2	3	フランス語の会話力を養成する	(1)やさしいフランス語の会話を自力で確実におこなうことができる。	○				
				(2)会話の内容について具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。				○	
フランス語会話 III	2	3	フランス語の会話力を養成する	(1)やさしいフランス語の会話を自力で十二分におこなうことができる。	○				
				(2)会話の内容について具体的に理解・説明することができる。				○	
				(3)フランス語検定試験3級合格以上の実力を身につけることができる。				○	
中国語演習 I	2	2	会話を中心に中国語運用能力を養成する	(1)中国語の初中級文法を修得できる。	○				
				(2)中国語の日常会話を無理なくこなせることができる。	○				
				(3)中国語検定試験4級はもちろん3級合格を狙える実力を身につけることができる。	○				

科目区分	授業科目名	単位	配当年次	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号			
						I 知識・ 理解	II 思考・ 判断	III 態度・ 行動	IV 汎用的 技能
						◎ 達成のためにとくに重要 ○ 達成のために重要			
学部 共通 科目	中国語演習Ⅱ	2	2	会話を中心に中国語運用能力を養成する	(1)中国語の初中級文法を修得できる。	○			
					(2)中国語の日常会話を無理なくこなせることができる。	○			
					(3)中国語検定試験4級はもちろん3級合格を狙える実力を身につけることができる。	○			
	ギリシア語Ⅰ	2	2	古典ギリシア語の初等文法	(1)ギリシア語の綴りをみて発音でき、文を読むことができる。	◎			
					(2)基本的な動詞・名詞・形容詞の基礎的变化を修得している。	○			
					(3)ギリシア語の簡単な文の意味が分かる。	○			○
	ギリシア語Ⅱ	2	2	古典ギリシア語の初等文法(続)	(1)ギリシア語動詞・名詞の変化のパターンをひととおり学んでいる。	○			
					(2)簡単な複文について意味が理解できる。	◎			
					(3)様相表現、条件文を理解し、辞書があれば古典の文章を読むことができる。	○			○
	エスペラント語Ⅰ	2	2	エスペラント語の基礎	(1)エスペラント語の読み書きの基礎を修得する。	◎			
					(2)エスペラント語の創案された背景を理解する。		○		
					(3)エスペラント語の現代的意義について自分の意見を持つ。			○	○
	エスペラント語Ⅱ	2	2	エスペラント語の応用	(1)エスペラント語の読み書きの応用を修得する。	◎			
					(2)エスペラント語での基本的な会話能力を身につける。	○			
					(3)エスペラント語を活用していくための展望を持つ。		○	◎	◎